

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ 安全管理は、事件や事故を最小限、未然に防ぐ予防対策です。第一に子どものことを考え、安全教育として子どもが安全に自らの身を守るための能力を身に付けることが大事であり、また、安全管理、遊びの環境における危険箇所、遊具のチェックなど、事故を未然に防ぐ対策につながると思います。体を動かすときの服装及び遊びのルールづくりをすることなど、安全に遊ぶために支援員同士でしっかりと見守っていくよう心掛けたいです。
- ◆ 今回の講義で心に残ったことは「常にもしものを考えて行動する」という言葉である。高齢者施設等でよく聞くヒヤリハットを収集し、原因を分析して事故予防に対処することも安全対策上効果的とのことであった。「ちょっとストップ、きちんと説明、さっと再開（ちょ・きん・さ）」を常に頭に置いて今後の支援にあたりたい。さらに、自ら安全に身を守る危険回避能力を身に付けてくれるよう臨機応変な指導を心掛けていきたい。
- ◆ 安全指導は、安全に自分の身を守る能力を身に付けてもらうことが大事となります。職員が役割分担をして、事前にリスクを最小限に抑えることも大切となりますが、事故防止策（リスク管理）のために禁止事項が多くなると活動の魅力も低下してしまいます。児童とともに主体的なルールを考えることで自己管理能力の向上にもつながると思います。「ちょ・きん・さ」の法則には感銘を受け、3つの眼（鳥の眼・虫の眼・仲間の眼）を持って安全管理をしていきます。
- ◆ 私たちの児童クラブでも先日避難訓練を行った。子どもたちからは「本番になったらやる、できる」といった声も聞かれ、避難訓練だけでは気持ちを向かわせることは難しいと思った。寺田講師の児童センターでは、毎月防災に関するイベントを行っており、それを子どもたちが楽しんで参加する様子が写真から伝わってきた。防災を遊びの中に落とし込みつつ、子どもたちが主体的に取り組んでいけるような仕組みを考えていきたい。
- ◆ 施設内での子どもの事故やケガについて未然に防ぐ予防対策と、万が一に発生した場合に最小限に抑え、再発しないように対策する必要があることを学んだ。毎日の安全対策は、誰からがやってくれるだろうという気持ちを持たず、自らが納得するまで確認していきたいと思う。また、災害時や不審者対策についても、子どもたちが安全に身を守る能力を身に付けることができるよう普段から何度でも話していきたいと思う。